

経済学部生の

「マネー事情」

今回は、本学経済学部の主に2年生を対象に聞いたマネー事情に関する質問、本学の厚生委員会の活動報告、そして経済学部教員4名が普段学生と接するなかで感じていることをもとにして、経済学部生のマネー事情について考えてみます。かつては、大学生が消費の主役であったり、洋服や音楽などの流行の発信源であったりしたこともありましたが。またバブル経済全盛時には、アルバイトの時給も上がり、若手サラリーマン以上の収入を得ていた学生もかなりいたようです。しかし、景気が低迷するなかで、今の本学経済学部の学生の財布の入り口と出口はどのようになっているのでしょうか。

親のすねはかじってない？

B教員／今回、この特集のためにとったアンケートは、一部（昼間）の学生を対象にしていますが、一ヶ月の収入に関する質問への回答では、自宅通学生では、小遣いゼロという回答が目立ちます。これは少し意外な感じがしますね。また、厚生委員会のデータでは、親を離れている学生の仕送りは、3万円から6万円の間が多いようです。一人暮らしの学生も、アルバイトによって生活費の一部をまかなっていることが伺えます。

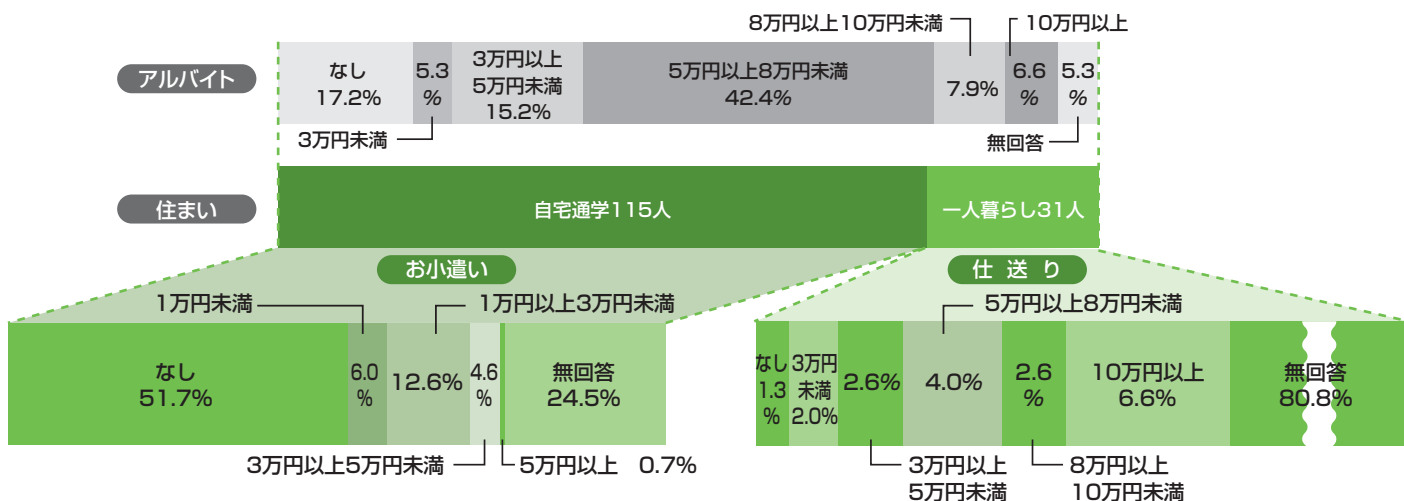
A教員／理由としては大きく二つ考えられると思います。一つは学生の側が、世間で言われているのとは異なり、自立しようという意識が高いということ。自立できるところは自立して、親には頼らないということですね。もう一つは、やはり不景気の影響で家計が苦しくなっており、小遣いなどにはまかせないということが挙げられるでしょう。ちなみに学費については殆どの学生が親に出してもら

っていると回答しています。もちろん、これは、どちらか片方とはいええないとは思いますが。家計が厳しいゆえに、学費以上に親には迷惑をかけられないといったように、両方の理由を含む学生も多いと思います。

C教員／親に迷惑をかけたくないと考えている学生は相当いると思いますね。この点では、本学は、まじめな学生が多いと思います。親に迷惑をかけたくないで、公務員試験や教職のための留年をあきらめ、就職先を見つけるという学生も結構多い。

D教員／一方で、教育費が家計を圧迫していることも確かにいえると思います。経済学部でも、経済的な事情で学業を継続することが出来ずに、退学する学生も少なからずいるのが現状です。経済的な困難で学業を断念せざるを得ないというのは、直面したものでないとわからない辛いものだと思えますが、いくつかの大学では、金融機関と提携し、学費を融資する制度も行われています。本学でも、こうした状況に対して、今後十分な対応が求められると思います。

1ヶ月の平均の収入



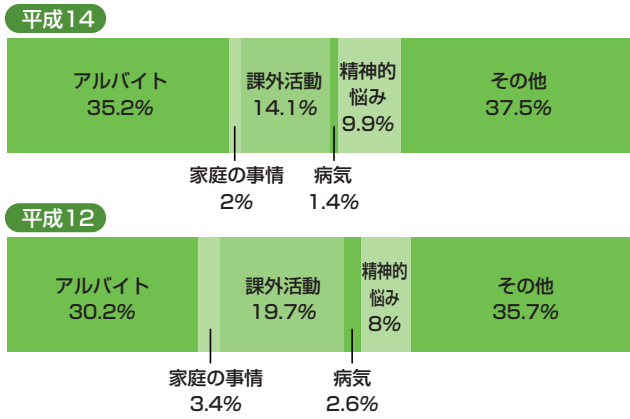
アルバイトは大事だけど…

A教員／アルバイトは、ほとんどの学生がやっていますね。厚生委員会のデータでも9割以上の学生がアルバイトをやっていると答えています。職種は、居酒屋などの飲食店、コンビニエンスストアやスーパーなどの小売業、家庭教師といったところが上位三つです。回数は、週3・4日、一回当たりの時間は5時間程度、給与は、月5万から8万くらい、といったところが一番多い。ただ、それが平均像かというところでもなくて、学生によって多種多様であることもアンケートからは伺えます。

B教員／そうですね。週5日とか6日という学生もいますし、また一回の労働時間は10時間以上という学生も6人くらいいます。月に10万円以上稼いでいるような学生もいますね。あまりアルバイトに熱中していると学業への影響が気になるのですが、厚生委員会のデータでは勉学に専念できなかった理由として、回答者の35%が、アルバイトを理由に挙げています。これは2年前と比べても、5%増えているようです。先程の、お小遣いの少なさをあわせて考えると、お金稼ぎに熱中して、学生の本分である勉学をおろそかにしている、といった批判をするのは酷なケースもあるのかな、という気がします。しかし、親に迷惑をかけたくないでアルバイトをする、そのアルバイトが学業よりも優先順位が高い、というの少し問題かもしれません。

D教員／学生と接していると、(彼等の頭の中で)アルバイトの優先順位が高くなってきているというのは感じますね。授業、ゼミ、サークル、アルバイトといったあたりが大学生の生活の柱になっていることが多いと思いますが、サークルに参加している学生もやや減少気味ですし、ゼミのコンパなんかでも、アルバイトがあるので参加することが出来ない、という学生が多いです。

勉学に専念できなかった理由 (複数回答可)



〔平成14年度学生実態調査状況〕
北海学園大学厚生委員会「平成14年度活動報告」より

C教員／アルバイトの優先順位が高いというのは、休みにくいということもあるかもしれないですね。飲食店やコンビニなんかだと勤務シフト表が組まれてしまっていることが多いでしょう。また、雇う側にも、勉強よりもバイトというような優先順位の意識があるのかもしれない。あと人件費を減らすために、アルバイトの数も絞り込みたいという意図もあるのかもしれない。飲食店などでは、同じ所ですと続けていると、店長クラスの仕事に任されているような学生もいます。特に、二部の学生などにはそういったセミプロ的な学生が多いですね。

B教員／学生の日々生活全体の中で、アルバイトの占める割合が高くなってきているということは確かですが、彼等にとってアルバイトをすることの意味とは何でしょう。一つにはもちろん、単純に生活費や小遣いといった日々の生活に必要なお金を稼ぐということもあるの

でしょう。ただアルバイトには、他にもお金を稼ぐことの大変さを知るといったような社会勉強的な意味合いとか、アルバイトをしていく中で自分のやりたいことを見つけたとかいった意味合いもあったと考えられるのですが。

B教員／一部の学生にはアルバイトが将来につながっていくようなケースもみられます。飲食店でアルバイトしていて、料理人の道に進むことを考えている学生もいますよ。もっとも、アルバイト先が、そのまま就職先になるようなケースはまれで、大多数は、待遇や勤務時間などで決めていると思います。

D教員／社会勉強的な意味合いも、やや薄れているのかもしれませんがね。アルバイトそのものが目的という感じもします。大学生にな

ったら、アルバイトしなきゃいけないといったような気分でアルバイトをしている。最初のゼミコンパなんかで、お互いに初めて話す学生の会話などを聞いていると、名前、出身高校の次に来るのが、「アルバイト何をやっている？」ってなることが多いですよ。アルバイト何をしているのかで、その人が何をしているのかわかるというふうになっている。

欲しいものがみつからない？

B教員／次に使い道に関する話に移りますが、まず書籍と答えた学生が極端に少ないというのは、寂しいですね。大学の授業で使う本でなくても、小説とか、面白い本は沢山あるはずなのに、残念ながら、本学学生も、活字離れはますます進んでいるのでしょうかね。

それはさておき、多いものから順にみていくと、飲食費、被服費ときて携帯電話が三番目にあげられています。この質問は自由回答形式なので飲食費は交際費と若干重なりがあると思いますが、携帯電話の占める割合は、この数字よりも大きいかもしれません。

A教員／大学生に限らず最近の若者の消費の傾向として、携帯電話の支払いが多くて、それが他の商品、例えば、洋服とかCDとか書籍とかへの消費に回す分が減っているなどといったことがよく言われていますよね。例えば、音楽業界が最近不振なのは、若者に迎合した音楽ばかり供給していたこと、その若者が携帯電話にお金を使ってCDにお金を費やさなくなったことが原因といったことを耳にしたことがあります。アンケートでも、使途に関する質問で、携帯電話と答えた回答が趣味と書いた回答よりも多かったあたりは、その辺を反映しているかもしれません。携帯電話にばかり使ってしまうのは、非常に無駄なお金の使い方をしているようにも見えますけど、欲しいものはつきり見えないという側面もあるかもしれません。今欲しいものを挙げてほしいという質問では、ユニークな回答もいくつかあったのだけど、半数以上が無回答です。回答する時間がなかったせいもあるかもしれないけど、すぐに思い付くものがないということもあるように思う。結局、欲しいものがないので、携帯の利用明細を見ても、それほど無駄使いと感じなくなっているのではないかと思います。

B教員／僕の学生の頃で欲しいものというと、テレビとか冷蔵庫とかそういうレベルですね。あとオーディオとか。それらは、自宅通学の学生は大体家に有るだろうし、一人暮らしの学生も暮らしを始める時点ですでにあるでしょう。すでに生活に必要なものはひと通りもっている、それ以上欲しいものは他にはない。今の学生は、あまり物欲がないのかもしれない。

C教員／一人暮らしの学生なんかでは、テレビを持っていないなんていう者も時々いますよ。無駄なものを持たないという傾向も一つにはあるのではないのでしょうか。携帯電話が普及したおかげで、固定電話を持っている学生はかなり少なくなっているし。

D教員／欲しいものがあれば、アルバイトなんかでも、もっと短期で高額のものを選ぶかもしれない。貯金に関する質問では、貯金をしている学生が多いというのも、そのへんが関連しているようにも思います。ただし、何か欲しいものややりたいことがあってそのためにアルバイトするというよりも、やはりアルバイトそのものが目的なのではないのでしょうか。目的を持った貯金というよりはむしろ、アルバイト代を使わないで、気がついたら残っていたという感じですね。

将来への期待と不安と…

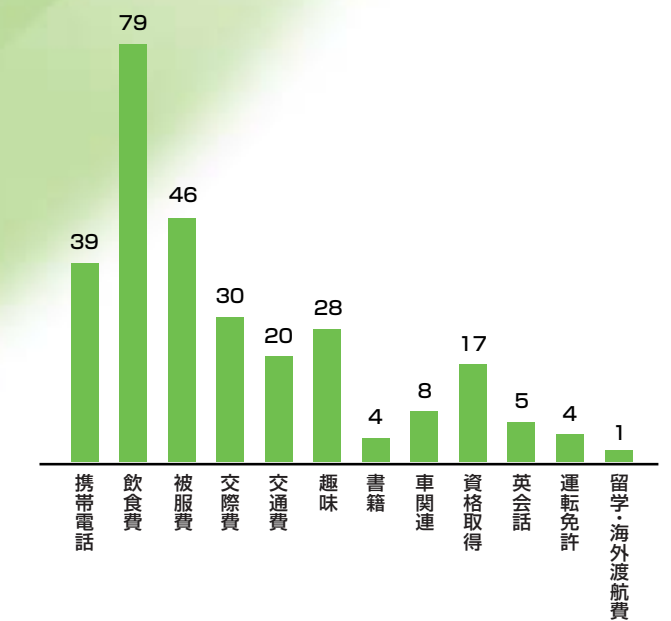
B教員／使い道ということについては、将来に対する漠然とした不安が消費意欲を減退させ、その結果として貯金する学生がいるということもあるかもしれませんね。アンケートでは、自分の将来の進路のために使っているか、という質問もありますが、この質問で『貯蓄』と書いている学生が二人いますね。今から将来設計を考えた上で貯蓄に励んでいるということは考えにくいですが…。

A教員／ただ、企業の終身雇用が前提で就職先にも困らないという時代であれば、卒業して就職をすれば、その先ずっとお金が入ってくるという漠然とした期待をいただくことが出来たけれども、今は、就職も困難になっているし、就職しても自分に合わないと思ったらフリーターになってしまうことも多い。こうした自分の将来への不安が『貯蓄』という回答を書いてしまうところにあらわれているのかもしれない。消費意欲の低さなども、こうしたことが影響していないでしょうか。

C教員／しかし、この質問への回答を見ていくと、資格取得にお金を費やしている学生が17人いて、不安定な将来に対して前向きな対応をしていこうとする傾向も伺えます。中には自動車の運転免許のようなものも含まれてしまっているかもしれないけれど、具体的に公務員講座、税理士、中小企業診断士と挙げている回答もいくつかあります。あと英会話という学生も5人いました。

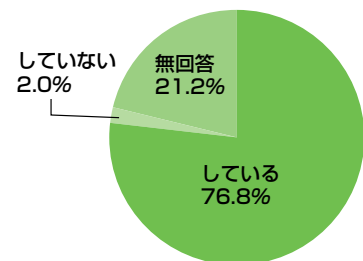
以前であれば、大学2年生というのは就職もまだ先で、それほど切迫感もなく、大学生活にも慣れてきて、いろいろなことを一番自由に出来る時期だったようにも思われます。となると3年生4年生になれば、この数字はさらに増えてくるでしょうね。実際、3年生以降に専門学校に通うとか資格を修得しようとかという学生はかなりの人数におよんでいると考えられます。将来に対して早くから高い意識を持ち、その準備をすすめることは非常に健全なことではありますが、それと同時に、我々教員の側も彼等の意識に対してどのように応えていくのかを、より一層真剣に考えていかなければならないでしょう。

使い道(人) 複数回答可

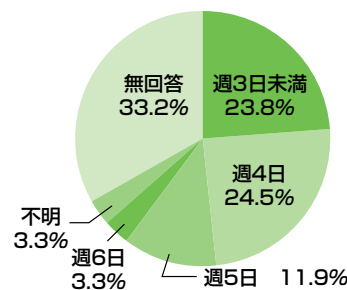


(この対談は2月末日、学内会議室で行われました。)

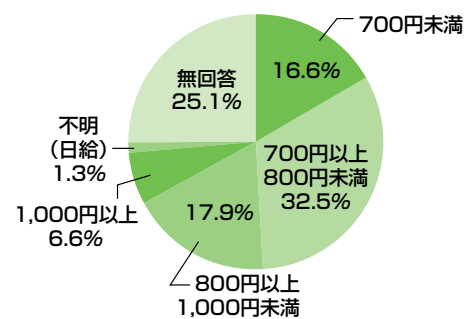
アルバイトをしていますか？



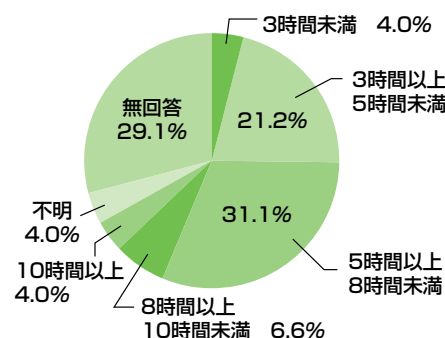
一週間に何日働いていますか？



時給はいくらですか？



一回あたり何時間働いていますか？



経済学部 ゼミナール協議会

略して
「経ゼミ」、
または
「ゼミ協」

今年は新人のゼミ協委員（以下ゼミ協）をたくさん獲得でき組織が発展しつつあるようにみえますが、どういう取り組みをしてきたのですか？

- A /ゼミ協委員の勧誘は、4月の経済学部のガイダンス時に、いきなり事務部にかけてあって、話をさせてもらう時間をもらいました。いっぱいいっぱいの中で説明をしましたが、入会者は20人を越えました。こんなにしてくれるとは思わなかった。
- B /私は1年生で勧誘された方ですが、ゼミ協って一体何なのか、大きくて硬い組織かな、との印象を持ちました。
- C /私は、最初のガイダンスの一番前の真ん中の席でした。突然ゼミ協の人が話しはじめてびっくりしただけで、興味をひかれて入りました。
- D /俺が勧誘したので、俺を目当てで来たんだ（笑）。その後の新入生歓迎会では、35人ぐらい来て、時計台の前で写真を撮ったりしたのを覚えてます。
- E /自己紹介で、酔ってくる1年生のキャラクターが見えてきたりして（笑）。
- F /先輩たちがどういふ人か分かった（笑）。はじめは恐ろしかった。新歓では変な人たただな、と（笑）。
- G /ゼミ協では、誕生日会を月ごとにやっています。驚かす意味でなるべく唐突にやって感激させよう、としています。その後も、“花見じゃなく川見”をやったり、ただ飲むだけじゃなくて、バレーボールをやったり、サッカーやったり、メガネなくしたり（笑）。
- H /一人一品持ち寄り、焼きそばを準備したけど、不評でした（笑）。
- G /仕事だけじゃなくて、遊びも含めて活動している。特に、あの時は1年生を入れようと必死だったんです。

北プロの取り組みとソフトボール大会の企画

- G /今年の北プロ（下欄参照）は、秋田経済法科大学が会場で、竹田ゼミと細見ゼミが参加してくれました。全般的な傾向ですが、やはり北プロへの参加には協力的なゼミとあまり協力的でないゼミがあります。かつて、ゼミ協の活動が途切れた時の印象があるのかもしれない。実際、私もゼミ協の建て直しをはじめてから北プロを知るようになったんです。
- I /ゼミ協自体が理解されていなくて、学生で知らない人も多い。もっと学部での位置付けも高くなるというのだけれど。
- A /代表者会議ではソフトボールの話題をあげると出席率がいいけど、北プロの話をするとうんざりしてしまう。もうちょっと参加呼びかけの方法に工夫が必要かもしれない。今年はソフトボール大会の準備を6月下旬からはじめ、9月に実施しましたが、盛況でした。
- D /合同ゼミでも参加できるように工夫をしたのもよかった。人数が少なくて参加できないゼミもあったから。あと、ゼミに1回も出席していない学生をどう扱うのか、人数の調整の問題も大変でした。
- I /資金集めでは苦労しました。あと、手続きや、人数や参加者の調整とか、結構大変でした。4~500人もいと予算の支出を決めるのもなかなか難しい。このページで、来年はとりあえず参加するゼミは早くお金を払ってくれ、と伝えておいてください（笑）。
- A /でも、ゼミの人たちがいるから、ゼミ協がある。ちゃんとやってくれる人がいるから、私たちがあがる、というのも実感しています。
- D /ソフトボール大会をやったゼミのまとまりができたり、飲み会やコンパでは話ができなかったりしていたのが、練習を通じて親近感が強まったりします。やはりやった甲斐があったと思います。一ゼミに一部屋があるとまとまりもでき、そこからもっと活動の水準が高まる。また、テーマ設定にも工夫したい。
- A /練習用に、ソフトボールの道具をゼミ協と厚生委員会で貸し出しています。
- D /ちなみに、ほくたちの伊藤（淑）ゼミは、練習試合では今年優勝した二瓶ゼミに勝ってるんですよ。でも、本番で賞金は持っていかれちゃいました（笑）。

来年の北プロ北海学園大会への企画はどの程度進んでいますか？

- A /昨年度の秋田経済法科大学に大会要員として参加しましたが、200名弱程度の参加学生数で、去年と比べると差はなかった。でも、発言はきれいにまとまっていた、すごい討論をしているゼミもありました。
- I /暗そうなゼミかなと思ったら、熱い討論をしたりして（笑）。去年は、僕もゼミ協に入ったばかりで、ゼミ協自体もよく知らなかったから、こんな

ことやってるところがあるんだなー、と感じました。やはりゼミが参加する目標みたいなものや目的をもって参加してもらいたい。高い水準の調査、議論の展開で評価されることになるんでしょうけど。

- A /運営はずごく一生懸命やっていた。土壇場でいろいろ走り回ったり、迅速に対応したり。また、東北大の議長団の方と仲良くなった。その人は3年間強制でやらされてきたみたいですけど、ゼミが北プロ対抗を目標にしている内容のようです。夏休みも缶詰状態で、ゼミ生の中には適当な人もいるけど、まじめにやった人にはいい思い出になる。僕たちは議論の達成感とか経験がないので、なかなか分かりにくいし、先輩も少なかったから、その辺を実感するのは大変です。
- D /現在、北海学園大学が北プロ代表校になって、1年生へと幹部交替をしながら、来年度の第47回ゼミナール大会の企画を進めています。すでに打ち合わせの会議も開き12月には加盟校会議をしました。大会のテーマを『デザイン』としています。新しい事、新しい姿のプログラムで具体化しようと思ってます。

この1年間のゼミ協活動を体験して

- J /先輩たちの行動力をみてきて、1年生の中にも「自分たちもちゃんとやらなきゃ」というまとまりができ、遊びの面でも仕事の面でもいい人間関係、つきあいができた1年でした。
- K /私はみんなと時間があわなかったけど、仕事をもっとしたかった。それが動機でゼミ協に入ったんですから。



- D /すごく早い1年だった。4年生は就職活動で参加できなかったの、俺たちがまとまらなかったらまたゼミ協はつぶれる、ということで頑張ってきた結果、自分たちも成長したと思う。
- I /この1年活動が広がった。とにかく人数が増えたり、大会参加者も前より増えた。ソフトボールも参加人数が多くなったし、遊びの面でも付き合いが多くなった。去年と規模が違ってきました。
- L /責任感が強くなって、この大学の経済学生に対しても、また、外の大学への責任も持ったこともあり、新しいこともしたいけど、勝手にもできない。中途半端にはできない。
- A /来年、他のいろんな大学の人と出会えるというのは、自分と違う環境の人と話ができていい刺激にもなるし、学園でもいろいろまじめに語れる人たちの輪が広がる。楽しめる。いろんな人と話せるのはいい経験です。
- I /異なった方言をしゃべる学生と議論するだけでも面白い（笑）。
- G /ゼミ協としてやりたいことはいろいろあるけど、ボランティアのように仕事そのものを有責でやっているので、自分ができる時に、できることをするというのがうちスタイルです。来年度は北プロを成功させることをメインにしながら、ソフトボール大会をもっと改善するとか、あと経営学部が設置されたので組織をどうするかを考えなければ、有能な人材を勧誘して、もう少し組織的に動けるようになればいいかなと思ってます。

●過去10年間のソフトボール大会優勝ゼミの栄光の記録

1993 (平成 5) 年 …… 大沼ゼミ	1999 (平成 11) 年 …… 山田 (誠)
1994 (平成 6) 年 …… 牛丸ゼミ	2000 (平成 12) 年 …… *大会中止*
1995 (平成 7) 年 …… 大場外書	2001 (平成 13) 年 …… 山田 (定)
1996 (平成 8) 年 …… 加藤	2002 (平成 14) 年 …… 二瓶
1997 (平成 9) 年 …… 鈴木	2003 (平成 15) 年 …… ?
1998 (平成 10) 年 …… 小田	

●2003年度は「東北・北海道学生経済ゼミナール（通称、北プロ）大会」が北海学園で開催

日時：2003年8月20日・21日(予定) / 会場：北海学園大学

今年のテーマは、『デザイン』をキーワードに、国際的な組織・システムとか国内の社会や経済のシステム・制度とか、社会で言われている『構造改革』の構造そのものを新しくどう構築するか。私たちは、現状のゼミナール大会も、社会に貢献する、資するものになっていないという問題意識を持っているので、自分たちの現状を打破することも意味して『デザイン』をテーマに企画の具体化を進めています。多くの学生・ゼミの参加を呼びかけます。

北プロって、
何？

北プロとは、「東北・北海道学生経済ゼミナール」の略で、「目的とするものは、経済学・経営学・商学の研究を通じて現代社会の諸現象を分析し把握することにより、社会に貢献せんとする」ことを基本理念としてかけ、毎年北海道東北の各大学経済学・経営学・商学系のゼミナールが一同に会して、各テーマごとに研究の交流を行うゼミナールの大会です。

卒業を前にどうしても書き残しておきたい。

【男/たに】
遊びすぎて単位テンパった

●最後に4年間の学生生活を一言で表現してみてください。
ムック、いのっち、三男、ハゲ、楽しかったよ！
実は、入学してからずっと車で通学してた。駐車場つくってくれー!!

ゼミ対抗のソフトボール大会は楽しかった。練習もしたし、女だけドナイスキャッチもした。あと、ゼミ旅行も楽しかった。みんな飲みすぎて、最高だった。女風呂から男風呂を一望できたし…。なんだかんだ言って、ゼミは大学生活の思い出になった。



●最後に4年間の学生生活を一言で表現してみてください。|先生→ジントニック最高!!【女/ゆきこ】
今だから言える秘密~それはハリー・ポッター秘密の部屋を見た者だけが知る…。

僕の部屋にはプーさんのぬいぐるみが20以上ある(部屋中プーさんだらけ)

【男/桜庭修平】

●最後に4年間の学生生活を一言で表現してみてください。
ある意味追われていた学生生活だった。【男/聡】

4年間で一番辛かったこと、勉強【男/T.S】

就職活動で授業を欠席したのが全く加味されなかったこと。"今"の「出席」の方が「後」の「就職」よりも先生は大層なんだと感じた。大学では「就職」を宮田材料に使っているが、そのような体質を改善しない限り、「就職活動を応援する」なんて言わないでほしい。【女/匿名】

学費を稼ぐために始めたはずのバイトが生活の中心になってしまい、学業がおろそかになった時期がありました。でも、それもいい思い出になると思います(卒業できれば)。

●最後に4年間の学生生活を一言で表現してみてください。

卒業したいです(43単位足りません)。【男/匿名】

私と少しでも、関わりを持ってくれた人達へ~ありがとう

●最後に4年間の学生生活を一言で表現してみてください。
学園大の4年間、やっぱり、イロイロありました!【女/M】

1年生の時の取得単位数、14。2年生からすでに卒業できるのか不安で過ごした大学生活でした。4年生になって就職・卒業が重くのしかかり、毎日頭が痛いです。●最後に4年間の学生生活を一言で表現してみてください。単位取得【男/一歩】

学園大のいいところ(ススキノ近いです)らしい。やくざ多い。全国で無名道内地方都市のみカリスマ。●最後に4年間の学生生活を一言で表現してみてください。
墮落は麻薬【男/匿名】

ちゃんと学校に行けばよかったと思いました。単位がとれず、留年、あまり良いことがなかった気がします。でも、これから社会に出るのに自分を変えてくれたことがたくさんありました。他にもバイトでのいろいろな人との出会いや、厳しさ、楽しさも知れてよかったです。充実した大学生活ではなかったけど、意味のないようにしたくないので、この大学生活を活かして、これからがんばっていきましょう。

●最後に4年間の学生生活を一言で表現してみてください。

親不幸【男/匿名】

思い出に残ったこと~現代経済理論で42番教室満席の中、怒られ、退室させられたこと。

旭川で鹿をひきそうになったこと。

友達へのメッセージ~髪をいじりすぎると、おじいちゃんになったときにドレッドじいちゃんになっちゃうよ。社会人になるにあたって~大変そうです。

●最後に4年間の学生生活を一言で表現してみてください。迷わず行けよ。【男/ダーリー】

私の友達が先生に怒られている姿を何回も見れたことが、楽しかったこと。大学生になってまじで怒られるのはつらいと思った。

●最後に4年間の学生生活を一言で表現してみてください。日々は決戦【男/黒王】

M教授ごめん下さい。昨年は1回も発表をしないまま1年をすごしてしまいました。教授のサザンを聞きたいので、また飲みに行きましょう。

●最後に4年間の学生生活を一言で表現してみてください。
バイト【男/Y.M】

バカになろう! 恥ずかしさやマジメさは大学では損…体験談(笑)。バイトや勉強、コンパ等考えつくもの全てを実行すべし。全部が自分にとってイイ経験になると思う。

高校までとは学ぶことの「量」も「質」も全く違います。

視野をひろげ多くのことを吸収しよう。

長ちゃん来年はいい報告待ってるぞ!

●最後に4年間の学生生活を一言で表現してみてください。

社会勉強【男/こーいち】

●最後に4年間の学生生活を一言で表現してみてください。
楽しかったことはデブ大久保の講演会です。
暖房がカンカンうるさい【男/W.S.バイト】
俺の大学生活は2年の時に“あのゼミ”に入った時にきまりました。酒・タバコ・女が好きな教授にいろいろな個性のあるゼミの人達。とても面白かったです。また今度酒が飲みたい…。

●最後に4年間の学生生活を一言で表現してみてください。もういっぱいいっぱい

(´_`;)【男/匿名】

1、2年生のツケがまわって3、4年でとても苦勞しました。新入生の諸君へ~合コンもいいけど1、2年生の時しっかり勉強しとけ、と強く言いたいです。【男/K.Y】

勉強がんばれば良かったです。もう一度、入学からやりたいです。

●最後に4年間の学生生活を一言で表現してみてください。寂しかった。【男/匿名】

●最後に4年間の学生生活を一言で表現してみてください。
最高!
【男/匿名】

●最後に4年間の学生生活を一言で表現してみてください。
波乱万丈【女/Y.H】
思い出に残ったこと~ゼミ旅行に行く途中、車の窓が全部くもるほどバカな話をしたこと。
●最後に4年間の学生生活を一言で表現してみてください。

●最後に4年間の学生生活を一言で表現してみてください。単位取得【男/一歩】

4年間は、あっという間に過ぎました。遊びすぎました。サボりすぎました。旅行が趣味で1年に5~6回は飛行機・フェリーなどで本州に渡ってましたね。インターネットで知り合った友達と会って、遊んだりする事が主でしたが。まあ、そんな感じでまあまあ楽しかったです。【男/匿名】

やっぱり初めてのゼミ合

でしょ!! 思い出に残ったといえば。ぶっつぶれましたネ。

●最後に4年間の学生生活を一言で表現してみてください。有意義な学生生活でしたよ!!
【男/K.M】

0先生、不幸な人ネタで人をテレビに投稿しようとし
しないでください!
F先生、遅刻魔の私を見捨てないでください。本当にありがとうございました。



農業経済学への志 私が生まれたのは今の旭川市の農家でした。男兄弟が3人いましたが、土地が小さかったので、2人は外に出ざるをえませんでした。それで、私は長男でしたが、順番はどうでもいいということで大学に行かせてもらいました。父は私を医者にしたかったのですが、私自身農業が嫌いではなかったのと、経済学にも関心があったので、農業経済学科に進みました。協同組合論のゼミをとりましたが、大きな理由があったわけではありません。ただ協同組合論は、マクロとミクロ、あるいは政策と個別経営の中間に位置するもので、その意味で両方を見渡せるんじゃないかと思ったわけです。学生生活はごく平凡なもので、大学では学習中心、夏休みは家で農作業の手伝いという具合でした。当時冷害が何度もあり、農家の負債対策の調査などによく連れていかれました。調査活動に基づいて研究するというスタイルもこの頃身についたと思います。大学院へ進んでいろいろな先生から薫陶を受けましたが、つねに視野を広く持てと教えられました。それで、市場や流通構造を背景として協同組合を位置づけるということをやりました。そのなかで地域に対する関心も芽生えてきました。

研究者として 大学院を出てすぐに北海道総合経済研究所に入りました。研究所が10年ばかりで取り組んできた『北海道農業発達史』が仕上げの時期を迎えていて、私はアスパラと亜麻を担当しました。歴史研究は非常に楽しかったです。2年半ほどそこに勤めた後、農学部の手伝いになり農協講座に所属しました。ちょうどその頃教育学部では、城戸幡太郎先生の構想にもとづく新しい学部作りが進められていましたが、そんな中で社会教育の講座でスタッフの補充が必要となりました。北海道的な社会教育は農民教育が柱になるのではないかと、それに協同組合は教育とも関係するからということで声がかかったわけです。教育学部には24年間在籍しましたが、前半は農民教育を研究していました。生産と生活、あるいは労働と生活の実態をふまえた農民教育を考え続けてきました。高名な美土路達雄先生を講座にお迎えしたりして、研究も相当進みましたので、農民教育に限らずもう少し領域を広げようということになり、海外研究も始めました。北大を退官する前の1年間は、高等教育機能開発総合センターに属し、生涯学習関係の仕事をしました。

地域経済への思い 北海学園大学は、北海道が必要とする人材を養成してきた高等教育機関として誇るべきものがあります。二部を重視しているのも得がたいことだと思います。今度地域経済学科ができますが、グローバルな視点で地域を研究する姿勢は大事なことです。それと同時にナショナルな視点も必要です。地域経済の発展にとって国の果たす役割の重要性をもっと強調してよいと思います。国は「小さな政府」と言って逃げの一手ですから。地域を支える人材ということで言えば、地域に暮らし生産している人々の多様で複雑な人間関係を総合的に見ることでできる能力が必要だと思っています。本学の学生の場合、就職先が道内に集中しているということで、積極さが足りないと言う人もいますが、必ずしもそうではないのではないのでしょうか。北海道に根をおろしている中小企業なりで落ち着いて仕事をしていれば、その企業自体がグローバルに活動するわけですから、行動範囲はどんどん広がってゆきます。それから、現実に地域を支えているのは実は高卒の人たちだということもつねに頭のすみに置いてほしいですね。大学としても、そういう意味で高校教育との連携が大事になってくるのではないかと思います。

これからの研究 私は、農業経済を軸にしながら地域や教育の問題に取り組んできました。これからは経営の問題を考えてみたいと思っています。中小企業などを見ていてどんな企業が元気かと言うと、とにかく従業員が自分の仕事に誇りをもっていて明るいということなんですね。つまり、企業に命を吹きこむのはやはり人なんです。そういう意味から、人を中心にして経営を考えてみたいと思っています。それからもうひとつは、協同組合の経営問題です。一連の企業不祥事などで、企業統治ということが問題になってます。そこで問われているのは、企業の民主主義とか社会的責任、あるいは公共性といったことなのですが、ここからは我田引水になるのですが、そのとき協同組合から学ぶことがたくさんあるんじゃないかと思うんです。逆説的な話になりますが、協同組合はこれまで経営の問題に真正面からぶつかったことがないんですね。それでもやってこれたわけです。しかしこれからはそうはいかない。みんなに支持されながら経営問題で悪戦苦闘することが、企業に対しても、あるいは場合によっては国や地方自治体に対しても何かを示せるんじゃないか。現実の経営問題の痛みと理念の間でもかくことから何かを示せるのではないかと。そのあたりのことを考えてみようと思っています。

【私の履歴書】

山田 定市 教授

担当講義 ● 非営利・協同経営論(協同組合論)

PROFILE

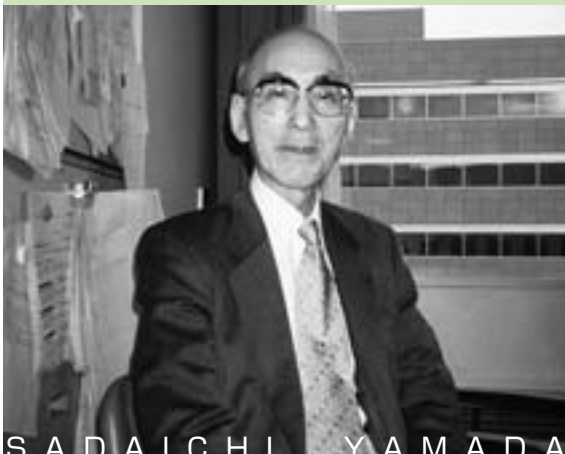
- 1932年 北海道旭川市(旧鷹栖村)に生まれる
- 1955年 北海道大学農学部農業経済学科卒業
- 1957年 北海道大学大学院農学研究科修士課程修了
- 1961年 北海道大学大学院農学研究科博士課程修了
- 1961年 北海道立総合経済研究所研究員
- 1963年 北海道大学農学部助手
- 1971年 北海道大学教育学部助教授
- 1982年 北海道大学教育学部教授
- 1995年 北海道大学高等教育機能開発総合センター教授
- 1996年 室蘭工業大学教授
- 1998年 北海学園大学経済学部教授
- ～現在に至る

主な論文

- ・『現代の農協理論』(金農協発達・1973年)
- ・『地域農業と農民教育』(日本経済評論社・1980年)
- ・『農と民の経済と協同 ― 地域づくりと主体形成 ―』(日本経済評論社・1999年)
- ・(編著)『地域づくりと生涯学習の計画化』(北海道大学図書刊行会・1997年)
- ・(共編著)『北海道経済図説』(北海道大学図書刊行会・1990年)
- ・(共著)『現代農民教育の基礎構造』(北海道大学図書刊行会・1981年)
- ・『協同組合の経営問題に関する基本視角 ― 労働論を基礎として ―』『経済論叢』第49巻第4号(北海学園大学経済学会・2002年)

現在の研究テーマ

非営利組織・協同組合の機能と経営構造



SADAICHI YAMADA

[学生諸君へ]

北海学園大学の学生は非常に素直だと思います。それはいい点ですが、ただ、札幌出身の人が多いため、高校時代も大学時代も大部分は自宅通学です。いろいろな刺激を求める場を意識的に作らないと、視野や活動の範囲が狭くなってしまふような気がします。その点で意識的な努力が必要だと思います。視野を広げるひとつの方法として、4年間のうち1冊でも2冊でも、古典として評価の定まっているものを読むことを勧めます。古典はその人の問題意識とレベルに応じて答えてくれます。逆にこちらの問題意識が低ければそっぽを向いて答えてくれないわけです。そこが魅力じゃないかと思います。それは4年間のかけがえのない経験になります。できれば何人かのグループで読むとよいでしょう。私も学部時代に5人の仲間と『資本論』全3巻を読みました。印象的なのは、卒業式のときに最後の部分を読んだということです。今でも集まるとその話になります。

ロシア文学への関心からドイツ文学へ —大学時代—

高校の時は山岳部に入っていました。顧問の先生が共産党で影響を受けました。今でも当時の仲間の人たちと登山をしています。受験勉強ばかりしていましたが、一方では受験勉強はくだらないと思い、文芸部の人達に少しコンプレックスを感じていたことを思い出します。文芸部の人達は受験勉強を否定し、真剣に自分の生き方に追求しているように見えたからです。

1967（昭和42）年に北大の文類に入りました。当時、北大は文類・理類などに大きく区分されていて、2年次の後期に学部移行がありました。私は当時、ドストエフスキーなどロシア文学が好きで、ロシア文学科に行こうと思いましたが、語学はドイツ語を選んでいたの、結局、独文科の方に進みました。当時のドイツ文学研究はゲーテやトーマス・マンなどが主流でしたが、私はあまり、興味を持って、哲学者のニーチェが好きになり、卒論はニーチェをやりました。ニーチェは哲学者ですが、哲学よりも文学的観点から取り上げられる事が多く、独文でも研究者が多かったです。ただ、当時は学生運動が盛んな時期で、私はあまり政治には関心がなかったのですが、4年次の頃はバリケードで教室などの建物が封鎖され、授業はほとんど出来ずに、一時期、先生と学生がクラーク会館で自主的に勉強会を開いていました。

当時は「社会変革」が叫ばれ、政治的であることが、普通であるような雰囲気、私のようなノンポリ（政治に無関心なタイプ）は、そうした流れから、はみ出ているような感じてました。当時、自分と同じノンポリの心象を描いた庄司薫の芥川賞受賞作『赤頭巾ちゃん気をつけて』に妙に感動したことを思い出します。

大学院時代

2年次でドイツ文学科に入りましたが、ドイツ語を1年次はあまり真面目に勉強してなかったこともあり、学部の授業に興味を持って、一時期、大学をやめて、社会で働こうと考えた時期もありました。しかし、思いとどまり、真面目に勉強することにしました。そのころ、ニーチェを読み始め、大学院の先輩と親しくなるにつれ、自分もそういう道を志しました。

ニーチェの「神は死んだ」という言葉で有名ですが、ニーチェの作品は「暴露心理学」と呼ばれているように人間の心を最終的に虚栄心、偽善、権力への意志に還元しています。人間のすばらしい行為もよくよく見てみると、最終的には虚栄心、エゴイズムを動機としているという考えが私には一番、気に入った所でした。

ドイツ文学からパターン化されない 新しい見方・考え方を学ぶ

研究テーマは、ニーチェから、オーストリアの作家ペーター・ハントケ、ゲーテへと興味・関心へと研究を広げています。外国文学の講義のためには、分かりやすく、面白く、広く読まれているものをテーマにしたいという考えから、最近ではグリム童話と、その関連で日本の民話なんかも含め、関心を持ち始めています。

ペーター・ハントケに興味を持った点は、通常の物の見方、生き方を否定し、新しい見方、生き方を求めている所です。我々の人生は毎日、暮らしているとパターン化された物の見方、生き方をするようになってしまふのですが、それを崩して新しい、パターン化されない考え方、見方をする事によって新しい人生、世界が見えてくるというハントケの考えに共感しました。

ペーター・ハントケは日本ではあまり有名ではありませんが、現在、パリ近郊に住んでいて、最近ではユーゴ問題で政治的な発言もしています。

ゲーテも少し研究しましたが、ゲーテの作品は一般的に退屈ですが、『親和力』という作品はストーリーも面白く、色々な点においてゲーテの人生観、世界観が描かれていて、非常に興味深い作品です。親和力は昔の化学用語で、物質同士の相性、引き合う力を表す言葉ですが、ゲーテは物質同士の相性、反応と人間同士の相性、反応を対比させています。物質同士の反応は必然的ですが、人間には理性や感情があり、物質のように必然的には融合したり、分離しません。エドワードとシャルロットという夫婦の城に、大佐とオットーリアと2人の人物がやって来るといふストーリー展開の中で、理性と感情の葛藤を描いています。 皆さんも興味があつたら読んでください。



「ドイツ・ケルン大聖堂前」

【私の履歴書】

瀬川 修二

教授

担当講義 ● ドイツ語

PROFILE

- 1949年 北海道小樽市に生まれる
- 1972年 北海道大学文学部文学科卒業
- 1976年 北海道大学大学院文学研究科独文学専攻博士課程退学
- 1976年 北海学園大学教養部講師、助教授を経て1994年教授
- 1998年 北海学園大学共通教育センター教授
- 2001年 北海学園大学経済学部教授

主な論文

- 「もうひとつの歴史—ペーター・ハントケにおける平和存在について」『学園論集』（北海学園大学学術研究会・1995年）
- 「20世紀ドイツ文学における言語の主題化—ペーター・ハントケの場合—」『学園論集』（北海学園大学学術研究会・1999年）
- 「新しい人生の再構築—ペーター・ハントケの『真の感情の時』について」『学園論集』（北海学園大学学術研究会・2002年）

現在の研究テーマ

ゲーテの『親和力』研究、グリム童話研究



〔学生諸君へ〕

ドイツ語を担当していて最近感じることは、1部ではやる気がない人、無表情で覇気のない人が多いことです。昨年は2部の外国文学の授業でグリム童話を教えました。社会人の人たちが教室の前の方に座って一生懸命、講義を聞いてくれました。教える方としては反応がないのが一番、困ります。何事に関しても一生懸命、ひたむきにやるのが大切だと思います。ただ、単位のために授業を受けている人が多すぎます。一生懸命やれば、何事も楽しくなるはずですよ。

語学に関して言えば、最初は面倒な文法や知らない単語ばかりで楽しくないかもしれませんが、頑張ってやっているうちに、徐々に面白くなってきます。ドイツ語を3、4年次まで続けてやる人は少数ですが、是非、最後まで続けてください。

大学院って どんなところ？

在籍院生数	
経済学研究科	
経済学専攻修士	23人
博士	3人
経営学研究科修士	20人
博士	3人



菊地倫子
(修士2年・社会人)
指導教授：森下宏美

●学部から大学院へ進学しようと思った動機は何ですか？

大学院に来たきっかけというのは、もともとアダム・スミスが好きで学部では森下先生のゼミに入っていたのですが、図書館へ行ったりして自分なりに勉強していくなかで、もっと範囲を絞って突き詰めた勉強をしたいなって気持ちからでした。学部4年間では理論の勉強にしても時間的にも不十分で、自分なりに納得しなかったというか、経済のもっと奥深い部分を追求したいと感じたからです。

●研究テーマをどう絞り込んでいったのですか？

現代の世界経済における勢力関係に学問的興味があって、高田保馬という日本の経済学者が自ら構築した勢力論である高田勢力経済学を大学院での研究テーマに選びました。元々は社会学者である高田が、どういう経路でどういう考えに基づいて経済学に取り組んでいったか、同世代で効用経済学のシュンペーターとの理論的關係とか、どうしても理論を自分なりに考えなくっちゃならなかったし、そういう必要に迫られて沢山本を読まざるを得なくなりましたね。

●修士論文を提出されての感想は？

論文を書き終えて、2年間で出来るところまではやったつもりですけど、まだまだ不十分というか甘いというか…。書いた結果に自分が納得するしないは別にして、いろんな意味で勉強になりましたね。本を読むというのは、その中を見るという事で、何度も何度も同じ所を読んだりしているうちに見えてくるものがあるんですよ。本を読むことによって少しは物事を深く見ることが出来るようになったかなと思います。普通の会話とか旅行先で、意識しなくてもサーッと聞き流したり見たりしなくなったのが、勉強の成果かなって思います。本を読むのは黙って静かにすることですけど、行動に移す時に役立つというか、静から動に移るときに、静は決して無駄じゃないっていうのが分かって、もの凄く勉強になりました。

●大学院全般について感想を教えてください。

たった1行書くのに沢山本を読まなきゃならなかったり、辛いし大変なんですけど、2年間通じて面白かったというのが率直な感想です。たぶん辛い方のウェイトが高かったんですけどね。学部の頃には大学院に圧迫感というか威厳というか、やっぱり凄い所なんだろうなってイメージが漠然とありました。大学院に来て、とても静かです。勉強する環境的には良いんだなって分かりましたね。大学院は社会人の方が結構入学されていますよね。社会人で勉強したいって方は、学部ではたぶん時間が足りないと思います。自分なりの勉強をするという意味では、大学院というのは良い所だと思いますよ。



友田寛子
(修士1年)
指導教授：高木裕之

●学部から大学院へ進学しようと思った動機は何ですか？

私は、女性として社会に出たとき男性と対等に競争していけるようになりたかったんで、キャリアアップとして大学院に行こうと思いました。今、税理士の資格を目指して頑張ってるんです。ずっと税理士資格を取りたいとは思っていませんよ。それで学部の時に試験を受けたかったんですけど、税理士試験は教養科目が重視されてるんですが専門科目を中心に取っていたために、ちょっと教養科目

目が足りなくて受験できなかったんですよ(笑)。それで学部から上に来たんですよ。ちょうど私の学年から大学院に行くことで会計科目が一科目免除になるということもありますけど、会計についてもっと勉強したいということが一番の理由にありましたね。ここは環境と自分にとって通いやすいということが条件としてとても良いですね。

●研究テーマを教えてください。

研究テーマは、ブランド会計というのをやっています。ブランドと言え一般的にはマーケティングの分野なんですけど、私としては、ブランドの資産的価値を如何に財務諸表のなかに載せていけるのか、ブランド価値というものが投資家にとって如何なる意義があるのかという研究をしていきたいなって考えてるんです。勉強を進めると意外に公式などが出てきて、その公式を理解するために数学の知識が必要になってくるんです。でもあまり数学を勉強してなかったし数学はあまり好きではないので、かなり苦しんでいますよ(笑)。

●学部と比べて大学院の授業はどうですか？

学部の時の授業は、レジュメを作ってきて一方的に話すという感じだったんですけど、経営学研究科では、社会人の方も多くいて、その方々の社会経験を通じた見解に触れることが多く、一つのテーマについていろんな角度から意見を頂いたり、幅広い知識が得られるような気がしますね。私自身あまり知識が無いものから、テーマについて事前にかなり調べたりしなければならぬですね。それと英語文献を読むことが多くなりましたから、学部のころに比べて英語の勉強をする機会が増えたなって思っています。大学院では英語の知識があるとだいぶ楽になりますね。語学は急に伸びないですから大学院を目指す人は学部の頃から勉強しておいた方が良いと思います。